

一般質問



伊藤 洋平 議員



録画映像

質問1 既存の施設を生かしたアウトドア活動振興について

市長 滞在型の観光地づくりを推進してまいりたい

問 アウトドア活動は、自然との触れ合いを通じて北海道らしいライフスタイルを提供するとともに、心に豊かさや潤いを与え、個性豊かな人材を育み、魅力あふれる地域づくりに貢献し、将来の北海道の自律的な発展を牽引する大きな可能性を有しています。

最近では、新型コロナウイルスの発生により、おうち時間が増える中、3密を回避できる広い大自然の中で楽しめるアウトドアが再びブームとなっています。

北斗市においても、きじひき高原キャンプ場、上磯ダム公園キャンプ場、湯の沢水辺公園キャンプ場など素晴らしいキャンプ場があり、これらのキャンプ場及びアウトドア施設のさらなる利活用を促し、地元の方たちや観光客の方たちに活用していただくことは、年々増加傾向にあるアウトドア需要を後押しし、持続的な観光振興として発展していくものと考えます。

そのようなことから次のことをお伺い

します。

(1) 北斗市にある既存のキャンプ場やアウトドア施設などを生かした取り組みについて、現在行われている施策及び令和4年度以降に実施する計画などがありましたらお伺いします。

(2) 学校教育においても、新型コロナウイルス感染症対策が続き、様々な行事が中止されている中で、アウトドア施設を生かした取り組みなどを実施することで、新たな学びの創出や学校生活の思い出づくりになると思いますが、学校教育でのアウトドア施設を利用した行事など、現在行われていることや、今後計画されていることがありましたらお伺いします。



きじひき高原からの眺望

答(市長)

(1) 市や北斗市観光協会では、平成22年度から本格的に体験観光事業の取り組みを始めており、アウトドアに関連した事業としては、これまでに地引網体験やトマト収穫体験のほか、きじひき高原での星空、朝日・雲海ツアーなど20を超える事業を実施しています。

令和4年度以降は、民間事業者が主体的に体験観光商品を販売する予定であり、市としても引き続きアウトドア活動を通じて滞在型の観光地づくりを推進してまいりたい。

答(教育長)

(2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学校教育における様々な行事が制限されるなど、子どもたちにとっても、ストレスのたまる学校生活を強いられています。

現在、アウトドアを活用した学校教育の取り組みについては、学校の立地条件や規模によって内容は異なりますが、「学校行事」としては、修学旅行や宿泊研修での野外体験の実施、また「授業の一環」としては、農林漁業体験学習やスキー学習、自然観察学習など、そして「地域の特性を生かした特色ある学校づくりの取り組み」では、木育活動、英語による地域紹介の活動、いかだ下り体験、そばの種まきから収穫、そして、そば打ち体験、サケのふ化から放流体験活動などが行われています。

学校教育としては、これまで各学校で行われている取り組みの継続とコミュニティ・スクールや土曜授業において、子どもたちが新しい発見や記憶に残るようなアウトドアでの体験活動を進めてまいりたい。

また、タブレットを活用したアウトド

ア活動に対する知識の習得や楽しさを教えることも大切なことであるとともに、社会教育事業と連携したキャンプやものづくり体験、スポーツ大会など、アウトドア事業への参加を積極的に呼び掛けてまいりたい。

問 コロナ禍をきっかけにアウトドアを始めた人も多いと思いますが、問題になつてくるのが、キャンプ場でのマナーの問題だと思えます。マナーを守らない方に対しての対策はどのようにお考えか。

答(都市住宅課長) 受け付けの際に、注意事項を記載したピラを配っていますが、令和4年度以降については、厳しめの注意事項にして、もし守らなければ、次からの利用はご遠慮していただくようなことを考えたい。

過去5年間の各キャンプ場の利用状況

キャンプ場名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
きじひき高原	5,182人	5,409人	6,535人	6,850人	8,559人
上磯ダム公園	11,505人	7,613人	11,337人	10,908人	12,569人
湯の沢水辺公園	4,002人	4,116人	4,284人	5,878人	10,015人

(出典：北斗市統計資料等より)